日本犯罪心理学会

第６０回大会プログラム

２０２２年９月３・４日

名古屋大学

大会スケジュール

9月3日（土）

9:00	受付 学生ホール				
9:45 10:00 10:30 11:00 11:45	口頭発表 （一般）1 処遇 S2X教室	口頭発表 （一般）2 査定 評価 S2Y教室	口頭発表 （一般）3 非行 犯罪観 S20教室	口頭発表 （事例） 事例* S21教室	ポスター 発表1 服部国際 奨学財団 ホール
12:00	昼休み				
13:00 13:15 13:45 14:00	総会 S30教室				
	休憩				
14:15 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30	全体シンポジウム 脳から見た非行・犯罪 ー生物学的機序を非行少年・ 犯罪者への理解と心理支援に生かすにはー S30教室				

9月4日（日）

9:00	受付 学生ホール				
9:45 10:00 10:30 11:00 11:45	公募ミニ・ シンポ1 臨床犯罪 心理学 における 感情労働 S2X教室	公募ミニ・ シンポ2 新型コロナ ウイルス 感染症が 犯罪に 与えた影響 S2Y教室	公募ミニ・ シンポ3 障害のある 矯正施設 退所者の 出所後の 地域移行 支援の在り 方を考える S20教室	口頭発表 （一般）4 各種犯罪 犯罪者 S21教室	ポスター 発表2 服部国際 奨学財団 ホール
12:00	昼休み				
13:00 13:15 13:45 14:00 14:15 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30	大会企画 ミニ・ シンポ1 犯罪の 予防的抑止 への挑戦 S2X教室	大会企画 ミニ・ シンポ2 特殊詐欺の 理解と予防 に向けて S2Y教室	大会企画 ミニ・ シンポ3 更生保護 施設に入所 する女性 保護観察 対象者への 見立てと 手当て S20教室	公募ミニ・ シンポ4 依存対象 特有の心理 的特徴を 踏まえた 認知行動的 アプローチ の検討 S21教室	

受付　　：学生ホール
クローク　　：C15教室
休憩室　　：C13教室
大会本部　　：C14教室

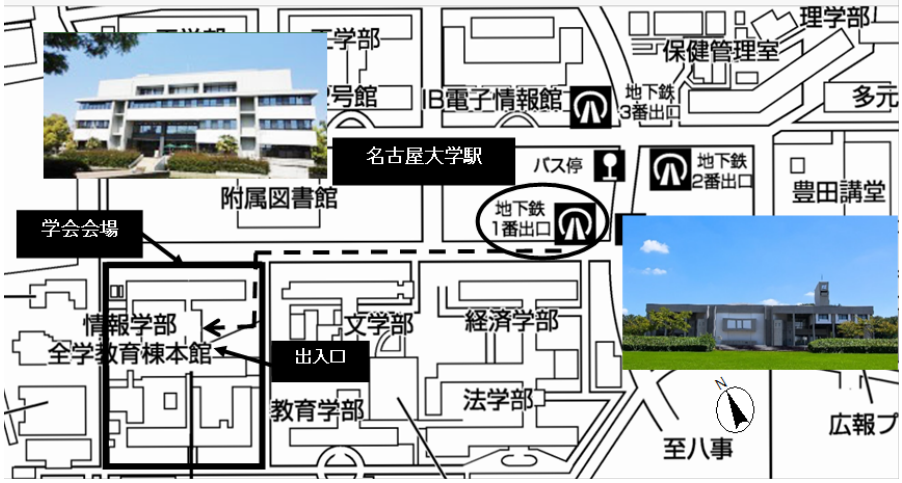
＊臨時会員の方は、口頭発表（事例）に参加できません。

会場へのアクセス

名古屋市営地下鉄・名城線「名古屋大学駅」１番出口から地上に出て、西へ徒歩５分

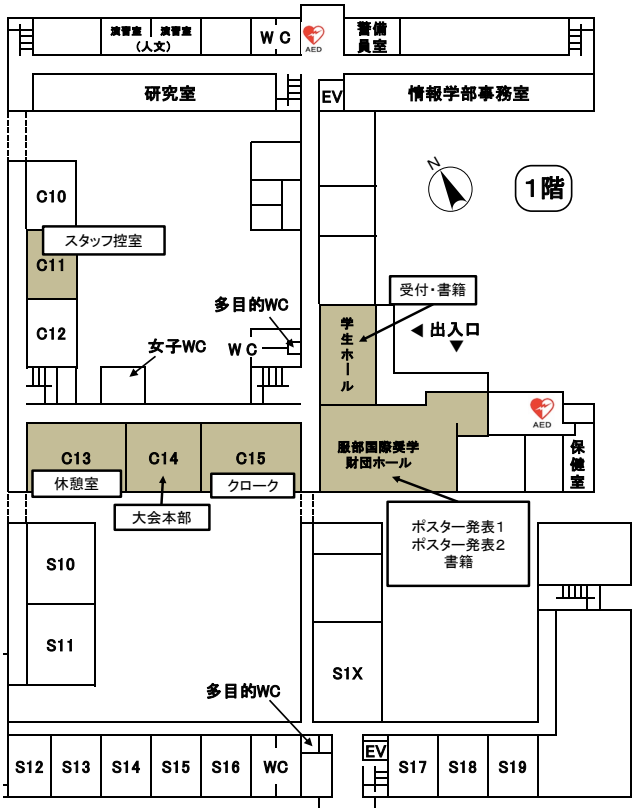
右手には木々が、左手には学部棟が立ち並ぶ広い道を、豊田講堂を背にまっすぐ進みます。

右手真横に附属図書館があるところまで来たら、左へ曲がるとすぐ右手に会場が見えます。



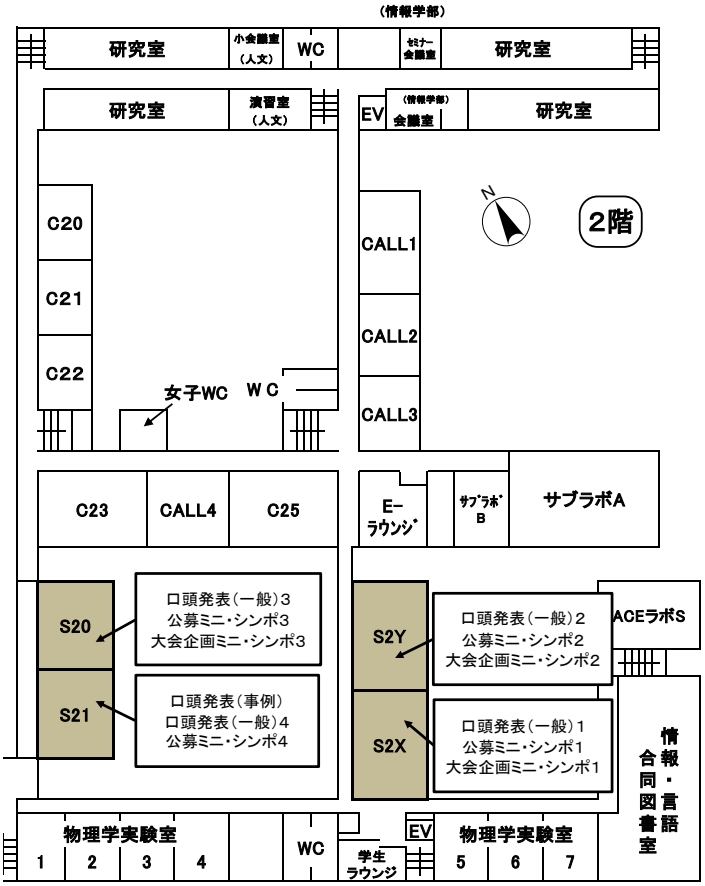
会場：名古屋大学東山キャンパス 全学教育棟（愛知県名古屋市千種区不老町）

問い合わせはメールで行ってください（jacp60th@gmail.com）。



１階

受付・書籍	：学生ホール
書籍	：服部国際奨学財団ホール
ポスター発表１	：服部国際奨学財団ホール
ポスター発表２	：服部国際奨学財団ホール
大会本部	：C14
クローク	：C15
休憩室	：C13
スタッフ控室	：C11

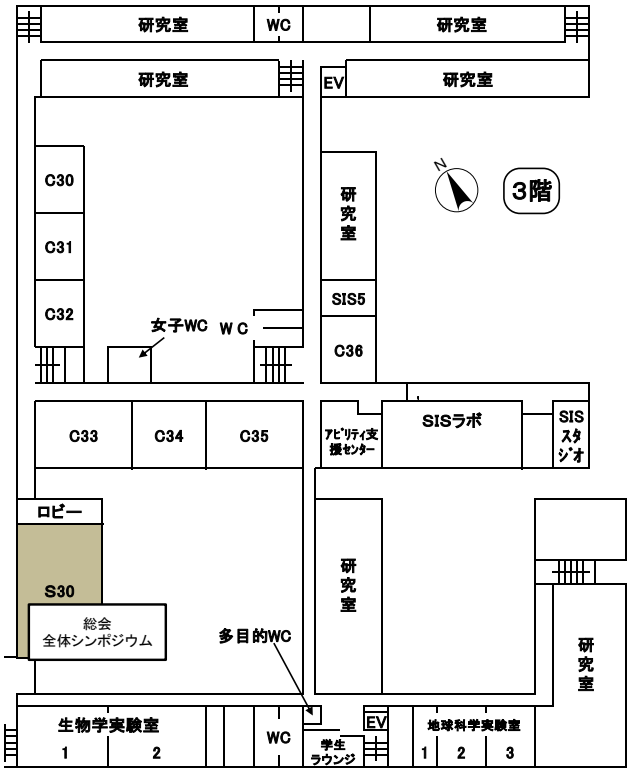


２階

口頭発表（一般）１　：S2X
口頭発表（一般）２　：S2Y
口頭発表（一般）３　：S20
口頭発表（一般）４　：S21
口頭発表（事例）　：S21
公募ミニ・シンポ１　：S2X
公募ミニ・シンポ２　：S2Y
公募ミニ・シンポ３　：S20
公募ミニ・シンポ４　：S21
大会企画ミニ・シンポ１：S2X
大会企画ミニ・シンポ２：S2Y
大会企画ミニ・シンポ３：S20

３階

総会　：S30
全体シンポジウム：S30



大会参加者へのご案内

1．大会受付

大会両日ともに９時 00 分より学生ホールにて受付を行います。

2．大会諸費用（当日）

大会参加費　正会員（一般）・臨時会員（一般）　8，000 円

正会員（学生）・臨時会員（学生）　4，000 円 ＊受付に学生証提示のこと

＊参加証は、会員区分に関わらず、大会当日に受付にてお渡しします。

＊名誉会員の大会参加費は、無料です。

＊臨時会員の方は、口頭発表（事例）に参加できません。

3．クローク

１階クロークにて、お荷物をお預かりいたします。お預かり時間は、第１日目は９時００分～17 時 50 分まで、第２日目は９時００分～15 時 30 分までです。クロークは施錠ができないため、貴重品は必ずご自身でお持ちください。

4．参加証

会場内では、必ず、参加証（ネームプレート）をお付けください。

5．発表会場など

ポスター発表の会場は服部国際奨学財団ホールです。口頭発表と各シンポジウムの各会場は全学教育棟（S2X、S2Y、S20、S21、S30）です。詳細は大会スケジュールをご参照ください。

6．打合せ、休憩、展示・販売コーナーなど

シンポジウムや一般発表の打合せ、ご休憩には C13 教室（両日とも９時００分から利用可能です）をご利用ください。展示・販売コーナーは学生ホールと服部国際奨学財団ホールです。

7．昼食、喫煙所

昼食は、会場近隣の飲食店やコンビニエンスストア等をご利用ください。お弁当などご持参の方は、全学教育棟（S2X、S2Y、S20、S21）、休憩室、服部国際奨学財団ホールをご利用ください。ゴミは、各自でお持ち帰りください。また、館内は、全て禁煙です。

8．総会

第１日目の 13 時 00 分から 14 時 00 分まで S30 教室にて開催いたします。

9．懇親会

懇親会は、コロナ禍の状況に鑑み、本大会では中止といたします。ご理解のほどお願いいたします。

１０．大会本部

大会本部は C14 教室です。緊急のご連絡の際には、本部にお越しいただくか、お近くのスタッフにお声掛けください。

また、大会本部では資料の印刷・複写などは受け付けておりません。必要な方はあらかじめご用意ください。

１１．発表原稿（大会抄録集原稿）の提出方法

Web での提出となります。2022 年８月３日（水）までに、発表申込みと同じ申込みシステムから、PDF ファイルにてご投稿ください。ただし、この提出方法が困難な場合は事務局にご相談ください。

※大会会場での提出は受け付けませんのでご了承ください。

※期限までに抄録原稿の提出がない場合は、正式な学会発表とは認められません。

※抄録原稿作成要領に従って原稿を作成してください。作成要領は、学会ホームページ上に掲載しております。

抄録原稿に関する問い合わせ先

日本犯罪心理学会第 60 回大会抄録原稿問い合わせ受付係

〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5

（株）国際文献社内　日本犯罪心理学会第 60 回大会ヘルプデスク

E-mail: jacp-desk@bunken.co.jp

Fax: 03-5227-8632

＊連絡はできるだけ E-mail にてお願いします。

なお、臨時会員で大会後に刊行されます本大会の抄録集の購入を希望する方も、上記までお問合わせください。

口頭発表のご案内

1. 口頭発表（一般）

座長１名が司会進行をおこないます。１件あたり 15 分を割り当て、発表を 12 分、質疑応答を３分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下のとおりです。

１鈴　発表終了２分前（10 分経過）

２鈴　発表終了（12 分経過）

３鈴　質疑応答終了（15 分経過）

2. 口頭発表（事例）

口頭発表（事例）は正会員のみ参加の会場となりますので、ご注意ください。座長１名が司会進行をおこないます。１件あたり 30 分を割り当て、発表を 20 分、質疑応答を 10 分とします。時間をお守りいただき、座長の指示にしたがって発表を進行させてください。会場スタッフによる合図は以下のとおりです。

１鈴　発表終了２分前（18 分経過）

２鈴　発表終了（20 分経過）

３鈴　質疑応答終了（30 分経過）

3. 機材

口頭発表会場（一般・事例）に用意されている機材は、液晶プロジェクターです。パソコンは、各自ご持参ください。Mac や iPad をご使用される場合は、接続アダプタ（HDMI や D-Sub）もご持参ください。なお、各セッションの発表開始時間前に各自パソコンの動作確認を行ってください。

4. 配布資料

配付資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

5. 発表成立の要件

セッション全体に参加し、口頭発表を行い、討議に参加することと、期限までに発表原稿抄録を提出することにより、発表が成立したと認められます。

6. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで○印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合は、大会前は大会ヘルプデスクへ、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

口頭発表において発表の取消しがあった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示にしたがって、討論や休憩等の時間にあててください。

ポスター発表のご案内

1. 掲示

ポスター発表の会場は、服部国際奨学財団ホールです。演題番号をご確認いただき、所定のパネルにポスターを掲示してください。

掲示時間は第１日目、第２日目とも９時 45 分～11 時 45 分です。ポスターの掲示は両日とも９時 00 分から可能ですので、発表開始前に作業を行ってください。画鋲は会場に用意します。発表終了後は、迅速に撤去していただくよう、ご協力をお願いします。終了時刻後も撤去されていないポスターは大会本部で撤去・廃棄することがあります。

2. ポスター形式

発表用ポスターは「縦 180cm×横 90cm」に収まるように作成してください。最上段に、題目・氏名・所属を明記してください。

3. 配布資料

配付資料は各自でご用意ください。大会本部では配布資料の印刷は行いません。

4. 発表成立の要件

ポスター発表では、ポスターを掲示し、これをもとに個別に討議を行っていただきます。掲示時間は２時間で、責任在席時間は１時間です。下記の時間に、ご自身のポスターの前に在席し、質疑応答を行うことと、発表抄録原稿を提出することにより、発表成立が認められます。

	第１日目	第２日目
演題番号が奇数の場合	９時 45 分～10 時 45 分	９時 45 分～10 時 45 分
演題番号が偶数の場合	10 時 45 分～11 時 45 分	10 時 45 分～11 時 45 分

5. 責任発表者、連名発表者、発表の取り消し

プログラムで「○」印が付いている方が責任発表者です。責任発表者が欠席した場合は発表取り消しとみなします。ただし、大会本部の了承を得て、連名発表者が発表を代行することができます。責任発表者の欠席や連名発表者による発表代行がある場合は、大会前は大会ヘルプデスク、大会期間中は大会本部へ連絡してください。

全体シンポジウム

９月３日（土）１４：１５－１７：３０　S30 教室

脳から見た非行・犯罪

ー生物学的機序を非行少年・犯罪者への理解と心理支援に生かすにはー

企画・司会：河野　荘子（名古屋大学）

話題提供者：

高橋　阿貴（筑波大学）

マウスモデルから明らかにする過剰な攻撃性の脳内メカニズム

酒井　厚（東京都立大学）

行動遺伝学から探る反社会的行動の発達メカニズム

岡野　憲一郎（本郷の森診療所／京都大学）

高機能のサイコパスとは何か？―その心理療法的アプローチの可能性―

大隅　尚広（千葉大学）

規範の遵守とソマティック・マーカー仮説

指定討論者：藤野　京子（早稲田大学／日本犯罪心理学会会長）

目覚ましい技術革新のおかげで、これまでブラックボックスとされてきたヒトの生物学的側面に関する情報が、さまざまな分野で明らかになっている。その最たるものが、脳機能の解明ではないだろうか。これまで私たちは、心という装置を想定し、心理学の理論や概念の枠組みをよりどころとして、非行少年や犯罪者たちを観察し、理解してきた。その価値は、時代を経てなお、決して色あせるものではないが、脳科学の知見を取り入れることで、私たちは、非行少年や犯罪者というヒトを理解するための、さらなる有益な手がかりを得ることとなろう。これは、とりもなおさず、非行・犯罪臨床が追及する深い人間理解の土台となる。

全体シンポジウムでは、動物の反応をもとにヒトの根源を追求する動物心理学や、遺伝と環境との交互作用の観点からヒトを理解しようとする行動遺伝学、ヒトの脳と心の結びつき、問題行動の発現と適応の経過などについて、各分野の研究者に最新の知見をご紹介いただく。その上で、指定討論者をまじえ、生物学的機序を非行少年・犯罪者への理解と支援に生かすためのヒントや、再非行・再犯防止、社会復帰へと結びつける意義や意味について議論する予定である。

大会企画ミニ・シンポジウム１　　９月４日（日）１３：００－１５：００　S2X 教室

犯罪の予防的抑止への挑戦

企画・司会　吉澤　寛之（岐阜大学）
話題提供者　嶋田　美和（徳島家庭裁判所）
　　福井　裕輝（SOMEC）
　　吉澤　寛之（岐阜大学）
指定討論者　濱口　佳和（筑波大学）

本シンポジウムでは、犯罪の予防的抑止の可能性について、異なるアプローチを用いた研究者を招き、予防医学の一次予防・二次予防・三次予防の観点に基づく議論を試みたい。本企画では、長年犯罪心理学を研究されている研究者の中から、再犯リスクアセスメントの研究者、性犯罪者の再犯抑止に関する研究者、学校における反社会的行動の予防に取り組む研究者の３者を迎え、犯罪者のライフコースの観点から、予防的抑止に関する限界と可能性を議論したい。

大会企画ミニ・シンポジウム２　　９月４日（日）１３：００－１５：００　S2Y 教室

特殊詐欺の理解と予防に向けて

企画・司会　原田　知佳（名城大学）
話題提供者　原田　知佳（名城大学）
　　澁谷　泰秀（青森大学）
　　島田　貴仁（科学警察研究所）
指定討論者　桐生　正幸（東洋大学）
　　越智　啓太（法政大学）

令和 3 年の特殊詐欺の認知件数は 14,498 件、被害総額は 282 億円に上り、依然として高齢者を中心に被害が高い水準で発生している。人の社会性を巧みに悪用し、コストをかけずに実行が可能な詐欺の問題は、加害者側への介入だけでは限界があるがゆえに潜在的被害者への介入も重要となる。本シンポジウムでは、特殊詐欺被害者と自己看破者の比較分析、高齢者の脆弱性に着目した研究、特殊詐欺予防行動促進のための介入実験から明らかになったことを踏まえて、特殊詐欺の理解と被害防止に心理学がどう貢献できるかについて議論したい。指定討論には、特殊詐欺研究に携わっているお二人の先生をお招きし、これまでの犯罪研究を踏まえた現状の認識と今後の展望についてコメントをいただく。

大会企画ミニ・シンポジウム３　　９月４日（日）１３：００－１５：００　S20 教室

更生保護施設に入所する女性保護観察対象者への見立てと手当て

企画　　星　あづさ（愛知教育大学）
司会　　長尾　和哉（名古屋保護観察所）
話題提供者　小竹　藍（名古屋保護観察所）
　　福井　結実子（岐阜保護観察所）
　　後藤　さとみ（岐阜地区協力雇用主会会長）
指定討論者　和田　美佐子（長野少年鑑別所）

刑務所を出所後、親族等の引受けのない女子受刑者の多くは、更生保護施設に帰住し、再び犯罪に手を染めないために、生活を安定させるなど社会復帰を目指している。しかし、強固な枠組みである刑務所とは異なり、在社会において、個々の特性や犯罪性、また、女性特有の問題等に配慮した適切な処遇を図るのは課題も多い一方で、再犯防止に直結する要諦ともいえる。

本シンポジウムでは、社会内処遇の専門家である保護観察官と女性保護観察対象者を雇用する協力雇用主という実務の最前線で活躍する専門家を迎え、議論したい。指定討論には、矯正の実務と研究の立場から女性犯罪者の特有について広い見地と社会内処遇の今後のあり方についてコメントをいただき、議論を展開していきたい。

公募ミニ・シンポジウム１　　９月４日（日）９：４５－１１：４５　S2X 教室

臨床犯罪心理学における感情労働

企画・司会　門本　　泉（大正大学）
話題提供者　大野　愛実（名古屋拘置所）／元木　良洋（東京拘置所）
櫻井　　鼓（追手門学院大学）

司法・犯罪心理学における臨床的な援助は、専門家に、この領域に特有の負担をしばしば課すことになる。感情労働の重さは、その一つだろう。加害行為を巡って対象者（加害者、被害者、それらの家族など）と出会い、関係を築き、その関係性の中で理解を深め、変化を促すにあたり、対象者のさまざまな感情を安全に扱う技術は不可欠である。同時に、専門家自身が自らの内的な動揺、混乱、驚き、怒り、悲しみ、そして無力感などに気づき、これを支援の実現のために使っていくことも、極めて重要な課題である。関係性のセラピー、ナラティブアプローチ、そしてメンタライゼーションなどの理論及び手法が、司法・犯罪領域で用いられるようになっている近年、このテーマについて考えることは、心理支援の有効性を向上させていくことにつながると考えられる。

そこで本シンポジウムでは、少年鑑別所、刑事施設で加害者臨床に携わってきた実務家、そして長らく警察機関等で被害者支援に携わってきた専門家を迎え、様々な感情労働の重要性と利用可能性、さらには現場における限界等について、実践と理論の双方から考察を加えていくこととしたい。指定討論者はおかず、否、後半では発表者それぞれ（そして、フロア）が互いに疑問をぶつけあい、新たな解釈を作り出していくような展開を目論んでいる。

公募ミニ・シンポジウム２　　９月４日（日）９：４５－１１：４５　S2Y 教室

新型コロナウイルス感染症が犯罪に与えた影響

司会・話題提供者　岡本　英生（奈良女子大学）
話題提供者　山本　雅昭（近畿大学）／松川　杏寧（防災科学技術研究所）
指定討論者　宇都宮　敦浩（鹿児島大学）

Covid-19 が世界的に流行するようになって２年以上が経過している。その間、主に感染抑止にともなう施策や行動の変化から、人間社会はさまざまな影響を受けた。犯罪発生にもその影響が見られている。海外ではさまざまな実証的な研究が積み重ねられており、ロックダウンによる人流の抑制により、減少した犯罪と増加した犯罪があることが示されている。これはいわば環境要因の急激な変化が犯罪の発生にどのような影響を与えるのかという興味深い問題の解明につながるものである。ただし、増加した犯罪への具体的な対応策や Covid-19 の流行の収束後の犯罪動向予測といったことについての検討はまだこれからであるなど、課題が残されている。また、多様な専門家による検討といった学際的アプローチもほとんど行われていないのが現状である。

ところで、日本では海外と異なり強制力のあるロックダウンが行われておらず、このことが犯罪にどのような影響を与えたのか明らかにするのは興味深い。しかし、日本では Covid-19 と犯罪についての実証研究があまり行われていない。そこで、本シンポジウムでは、この領域の最新の実証研究について、心理学にとどまらず、社会学や法学などの専門家（話題提供者）により紹介してもらうとともに、Covid-19 下で増えた犯罪への対応策や将来的な犯罪動向についての予測の可能性についても検討したい。

公募ミニ・シンポジウム３　　９月４日（日）９：４５－１１：４５　S20 教室

障害のある矯正施設退所者の出所後の地域移行支援の在り方を考える
―精神疾患のある A さんを中心とした司法、福祉、医療の連携実践から―

司　　会　鈴木　美乃里（株式会社 LITALICO パートナーズ）
話題提供者　日向　洋平（横浜刑務所）／野口　晃菜（一般社団法人 UNIVA）
　　丹羽　康治（株式会社 LITALICO パートナーズ）
指定討論者　熊上　　崇（和光大学）

矯正施設から退所した障害のある人にとって、施設退所後に必要なのは、住居、福祉サービス（生活保護、障害者手帳の取得）、医療機関との連携であるが、具体的にはどのようにすれば良いのだろうか。近年、矯正施設から退所した障害のある人が必要に応じて福祉的支援をスムーズに利用するための施策として、例えば、2009 年 から高齢又は障害を有し、かつ、適当な帰住先がない者について釈放後速やかに、適切な介護、医療、年金等の福祉サービスを受けることができるようにするための「特別調整」を実施されている。また、刑事施設においては、2014 年度から、「福祉専門官」という職種が設けられている。一方で、特別調整を受けることができないが、福祉や医療を必要としている障害のある出所者への支援が課題となっている。

本シンポジウムでは、ある精神疾患を抱えた退所者に対して、刑務所において出所前に福祉専門官の紹介から、就労移行支援事業所や訪問看護の利用を検討し、その後就労移行支援事業所・居住支援・訪問看護が連携をして支援をしたケースについて、刑務所の福祉専門官、福祉事業所、訪問看護を担っている医療、それぞれの立場から報告する。その上で、罪を犯した障害のある人の司法・福祉・医療の連携の在り方と社会的・心理的支援の課題について議論したい。なおケースについては、発表の承諾をご本人から得ているが、個人が特定できないようにして発表を行う。

公募ミニ・シンポジウム４　　９月４日（日）１３：００－１５：００　S21 教室

依存対象特有の心理的特徴を踏まえた認知行動的アプローチの検討

司会・話題提供者　浅見　祐香（早稲田大学大学院）
話題提供者　野村　和孝（北里大学）／田中　佑樹（和洋女子大学）
　　山口　昂亮（早稲田大学大学院）
指定討論者　浦田　　洋（甲子園大学）／谷　　真如（法務省保護局）

司法・犯罪分野における再非行、再犯防止の取り組みとして、エビデンスの蓄積の多さが特徴である認知行動療法の活用が広まっている。性犯罪再犯防止指導が再犯防止において有効であるという調査結果が公表されてから 10 年経過した現在では、どのような特徴の対象者にどのような効果があるのかという観点から、さらなる検討が進められている。対象者の罪名や行為の種類等のくくりで理解される現状を踏まえると、認知行動療法の効果を高めていくためには、支援において考慮が必要となる個人差のアセスメントが重要であると考えられる。このようなアセスメントの観点の１つとして、物質依存や行動嗜癖などの依存症状が再犯に及ぼす影響性の程度についての分析が必要であると考えられる。さらに、依存行動そのものが犯罪行為にあたるか否か、また、薬物の離脱症状や性犯罪における認知の歪みなどといった、犯罪行為に影響を及ぼしうる依存対象の種別ごとに特有の特徴を踏まえた支援を実施することが効果的であると考えられる。

そこで本シンポジウムでは、認知行動療法の効果を高めるために、必須とされる共通する実践上のアセスメントに加え、依存の種別ごとに特有の心理的な特徴やその特徴を踏まえた効果的な支援について検討することを目的とする。

口頭発表（一般）1　第1日

処遇（S2X教室）　　**9月3日（土）　9：45～11：45**

座長：中村　修

9：45～　○1-1 **女子非行少年の自傷行為からの脱却のプロセスに関する研究**

要旨　女性の犯罪の鍵概念の一つである自傷行為に着目し、女子少年院在院者へのインタビューを通して、自傷行為から脱却するプロセスについて検討した。

○ 山口 勇弥　(九州女子大学)

10：00～　○1-2 **日本の累犯刑務所における性犯罪者の再犯の過程　ー彼らは何を目標とし、どんな方略を用いたかー**

要旨　self-regulation model(Ward & Hudson, 2000)を軸に性犯罪の再犯に至った経路を分類することによって、繰り返し受刑する性犯罪者に対する介入方法を検討する。

○ 平野 貴子　(府中刑務所)
中村 修　(川越少年刑務所（非常勤職員））
寺田 孝　(府中刑務所)

10：15～　○1-3 **痴漢の犯罪の類型学的及び質的理解と治療**

要旨　痴漢の犯罪者は向社会的側面を持つにもかかわらず再犯が多い。痴漢の犯罪について、類型学的に、かつ質的な理解を深めることによって、治療の方策を探る。

○ 中村 修　(府中刑務所)
平野 貴子　(府中刑務所)

10：30～　○1-4 **マインドフルネスプログラムにおける「書く瞑想」の質的検討―児童自立支援施設の実践から得られる示唆**

要旨　マインドフルネスプログラムの一つである「書く瞑想」に着目し、児童自立支援施設での実践記録を質的に検討することを通じて、その活用可能性を考察する。

○ 原田 杏子　(法務省矯正研修所)
谷本 拓郎　(京都光華女子大学)
山岡 あゆち　(東京少年鑑別所)

10：45～	○1-5 **当事者支援者の関わりを受けた非行少年の立ち直りのプロセス** 要旨 元犯罪者が，非行少年や犯罪者の立ち直りに取り組む支援者になり支援活動を行っている。そのような当事者支援者の影響について支援を受けた元少年の語りから分析を行った。	○ 三垣 明子	(大阪家庭裁判所)
11：00～	○1-6 **痴漢事犯者に対する性犯罪再犯防止指導の効果（2）** 要旨 前回研究（新海ら，2022）では，性犯罪再犯防止指導（高密度）において，痴漢事犯者であることが再入所のリスクを高めるとの結果を得た。本研究は，これを踏まえ，痴漢事犯者の再入所に至る要因について精査した。	○ 寺田 孝 平野 貴子 新海 浩之	(府中刑務所) (府中刑務所) (千葉大学)

口頭発表（一般）2　第1日

査定・評価（S2Y教室）　　9月3日（土）　9：45～11：45

座長：里見　聡

9：45～

○2-1 **少年鑑別所在所者の非自殺性自傷行為の特徴（1）**

要旨　少年鑑別所の在所者について非自殺性自傷行為の経験等に関する質問紙調査を実施し，主として援助要請行動との関連に焦点を当てて分析・検討を行う。

○ 高橋 哲　（お茶の水女子大学）
明星 佳世子　（京都少年鑑別所）
安田 美智子　（大阪刑務所）
宮本 悠起子　（神戸少年鑑別所）
今原 かすみ　（大阪少年鑑別所）

10：00～

○2-2 **少年鑑別所在所者の非自殺性自傷行為の特徴（2）**

要旨　少年鑑別所の在所者について非自殺性自傷行為の経験等に関する質問紙調査を実施し、主として自傷行為の機能に焦点を当てて分析・検討を行う。

○ 宮本 悠起子　（神戸少年鑑別所）
安田 美智子　（大阪刑務所）
明星 佳世子　（京都少年鑑別所）
今原 かすみ　（大阪少年鑑別所）
高橋 哲　（お茶の水女子大学）

10：15～

○2-3 **少年鑑別所在所者の非自殺性自傷行為の特徴（3）**

要旨　少年鑑別所の在所者について非自殺性自傷行為の経験等に関する質問紙調査を実施し，主として小児期の逆境体験との関連に焦点を当てて分析・検討を行う。

○ 今原 かすみ　（大阪少年鑑別所）
明星 佳世子　（京都少年鑑別所）
安田 美智子　（大阪刑務所）
宮本 悠起子　（神戸少年鑑別所）
高橋 哲　（お茶の水女子大学）

10：30～

○2-4 **公式統計からみた再入受刑者における犯罪行動の特殊・固定化と多様性**

要旨　矯正統計年報に基づき，Farringtonによって開発されたthe forward specialization coefficientを計算し，罪名別の特殊・固定化と多様性の程度を評価した。

○ 遊間 義一　（兵庫教育大学大学院）
金澤 雄一郎　（国際基督教大学）

10：45～　○2-5 **離脱研究とRNRモデルとの実践的統合**

要旨　非行・犯罪からの離脱に関する研究及びRNR原則に基づいた研究を概観し、それらの知見を比較検討するとともに、非行少年・犯罪者処遇の実践の視点からこの二つの立場の統合を試みる。

○ 林 秋成　（広島少年鑑別所）

11：00～　○2-6 **少年院での体験が非行からの離脱に及ぼす影響（3）**

要旨　非行離脱経験者へのインタビューを行い、少年院入院前や少年院での体験が離脱にどのような影響を及ぼすか、M-GTAを用いて分析・検討を行った。

○ 小西 佳世　（横浜少年鑑別所）
塩川 友紀子　（長野刑務所）
林 秋成　（広島少年鑑別所）
里見 聡　（大阪矯正管区）
吉原 大樹　（法務総合研究所）
中川 万幾子　（広島矯正管区）

11：15～　○2-7 **少年院での体験が非行からの離脱に及ぼす影響（4）**

要旨　少年院での体験がその後の離脱に与える肯定的・否定的影響をM-GTA分析によって示し，今後の少年院での関係性や処遇の在り方について検討する。

○ 塩川 友紀子　（長野刑務所）
林 秋成　（広島少年鑑別所）
里見 聡　（大阪矯正管区）
吉原 大樹　（法務総合研究所）
小西 佳世　（横浜少年鑑別所）
中川 万幾子　（広島矯正管区）

口頭発表（一般）3　第1日

非行・犯罪観（S20教室）　　9月3日（土）　9：45～11：45

座長：笹竹　英穂

9：45～　○3-1 **少年鑑別所入所者の認知情動行動リスクと罪種・再犯歴との関連**

○ 吉澤 寛之　（岐阜大学大学院）
反中 亜弓　（名古屋少年鑑別所）
吉田 琢哉　（岐阜聖徳学園大学）

要旨　少年鑑別所入所者を対象に、認知情動行動リスク（道徳不活性化など）や、保護者・教師・友人・地域住民との関係を測定し、罪種履歴や再犯歴との関連を検討した。

10：00～　○3-2 **犯罪心理学は臨床心理学の単なる実践分野ではない！--初学者におけるイメージの差異--**

○ 緒方 康介　（大阪公立大学）

要旨　公認心理師カリキュラムの普及に伴って犯罪心理学を臨床心理学の一応用領域と誤認する心理学徒が現れた。そこで学習を始める前の初学者におけるイメージの差異を調査した。

10：15～　○3-3 **親の能動的・反応的攻撃性と共感性が養育行動及び児童の攻撃行動に示す関連性の検討**

○ 濱口 佳和　（筑波大学人間系）

要旨　小学1年生～6年生の児童の父母411名を対象に，Web調査を実施。親の能動的・反応的攻撃性➔親の攻撃行動➔親の養育行動➔児童の攻撃行動の4水準のパスモデルをSEMで分析し，適合度の高いモデルを得た。

10：30～　○3-4 **法務少年支援センターに係属した子の問題行動に悩む親の特徴**

要旨　子の問題行動への悩みを抱えて法務少年支援センターに係属した親とその子（対象者）に対し、親子関係診断検査を実施し、プロフィールの特徴を把握することで、支援の一助とする。

○ 青木 千景　（山形少年鑑別支所）
内山 博之　（山形少年鑑別支所）
安藤 友祐　（仙台少年鑑別所）
服部 真人　（仙台少年鑑別所）
渡邉 篤　（盛岡少年鑑別支所）

10：45～　○3-5 **福祉施設を退所した触法知的障害者の再犯リスク予測ツールの作成**

要旨　本研究では，触法知的障害者の再犯抑止のための取組として，RNR原則に基づき効果的な介入を行うため，知的障害者に特化したリスクアセスメントツールを作成する。

○ 東條 真希　（兵庫教育大学連合大学院）
遊間 義一　（兵庫教育大学連合大学院）

11：00～　○3-6 **事例情報と統計情報の組み合わせ効果の検討 ―バイク運転中の煽り運転被害に着目して―**

要旨　本研究は、バイクに対する煽り運転被害を題材に、統計情報と事例情報を組み合わせて提示した際の効果が、回答者のバイクの運転の有無で異なるかを検討する。

○ 柴田 侑秀　（北海道大学CERSS）
中谷内 一也　（同志社大学）

口頭発表（事例）　第1日

事例（S21教室）　　**9月3日（土）　9：45～11：45**

座長：堀尾　良弘

9：45～	○事-1 **中高齢者の万引き窃盗の力動的解明と心理支援** 要旨 高齢者の万引きは社会的問題であるが、動機及び心理支援については明確ではない。本研究では、加害者が対象を取り込む過程を力動的に考察し、関係性を用いた支援について検討する。	○ 中村 大輔	(神戸臨床心理カウンセリングルーム研心音)
10：15～	○事-2 **少年による殺人等事件被害者遺族の支援に関する一考察～被害者支援精通弁護士との協働による一事例を通して～** 要旨 被害直後,少年審判,裁判員裁判,最高裁及び特別抗告棄却まで携わった少年殺人事件遺族の事例から,精通弁護士との協働による途切れることのない支援を検討する。	○ 浅野 晴哉	(宮城県警察本部)
10：45～	○事-3 **性犯加害者に対する短期力動的集団精神療法の成果の検討** 要旨 刑事施設内において性犯加害者を対象に実施した短期力動的集団精神療法の事例を取り上げ、その成果を検討する。	○ ジェイムス 朋子	(京都橘大学)
11：15～	○事-4 **高等学校の教育困難校における特別指導での問題行動防止プログラムの実践事例** 要旨 問題行動要因を抱える生徒が多く在籍している高等学校の教育困難校において、認知行動療法に基づく系統的予防教育、少年院等における矯正教育を導入した特別指導の実施報告	○ 浅野 隆 吉澤寛之	(岐阜大学大学院) (岐阜大学大学院)

口頭発表（一般）4　第2日

各種犯罪・犯罪者（S21教室）　　9月4日（日）　9：45～11：45

座長：横田　賀英子

9：45～　○4-1 **犯行中の暴力の態様から暴力犯罪歴は予測できるか**

要旨　過去に行った性犯事件調査のデータを用いて、性犯罪者の犯行中に認められる暴力の態様から、過去の暴力犯罪経歴が予測可能かについて検討を行った結果を報告する。

○ 渡邉 和美　（科学警察研究所）
横田 賀英子　（科学警察研究所）
大塚 祐輔　（科学警察研究所）
平間 一樹　（科学警察研究所）

10：00～　○4-2 **１０～２０歳代で母親になった女子受刑者の特徴と支援ニーズの探求**

要旨　初産年齢が１０～２０歳代の女子受刑者の社会経済的状況、小児期逆境体験やメンタルヘルス、育児関連の問題等について検討し、効果的な支援の在り方について考察する。

○ 佐々木 彩子　（さいたま少年鑑別所）
吉原 大樹　（法務総合研究所国際事務部門）

10：15～　○4-3 **児童を対象とする調査研究への研究倫理規程の影響**

要旨　本発表は、本学会会員に対して昨年行った児童を対象とする調査研究に関するアンケート調査の結果の概要を明らかにするとともに、それに基づく考察を行うものである。

○ 四方 光　（中央大学）

10：30～　○4-4 **特殊詐欺事犯者における役割類型別に見た犯行動機等の違いについて**

要旨　特殊詐欺事犯者について、刑事確定記録等を用いた調査により、犯行時の役割類型別に犯行動機や事件の認否の状況等を分析し、その傾向や違いを検討した。

○ 金綱 祐香　（法務総合研究所）
鈴木 愛弓　（法務総合研究所）

10：45～	○4-5 **男性受刑者のロールシャッハ・テストとCWSの収束的妥当性について－テストバッテリーの可能性－** 要旨 公然わいせつを繰り返す男性受刑者に実施した，ロールシャッハ・テストとCWS（クリシ・ワルテッグシステム）の解釈における共通点及び相違点について検討し，テストバッテリーの視点を含めた考察を行った。	○ 鈴木 純一 村上 貢	(札幌刑務所) (村上カウンセリングオフィス)
11：00～	○4-6 **更生保護施設に帰住した覚醒剤事犯仮釈放者の再犯リスク要因と処遇に関する検討** 要旨 覚醒剤事犯仮釈放者の中でも更生保護施設に帰住した者の再犯リスク要因を明らかにするとともに、薬物依存からの回復に重点を置いた処遇の在り方について検討する。	○ 谷 真如 赤木 寛隆	(法務省保護局) (法務省保護局)

ポスター発表１ 第1日
（服部国際奨学財団ホール）　　9月3日（土）　　9：45～11：45

P1-1

性犯罪再犯防止を目的とした被害者共感性アプローチによる効果が有効な性犯罪者の状態像

要旨　本研究では，性犯罪者に対して被害者共感性を扱った治療的アプローチに関する文献を概観し，当該のアプローチによる効果が十分ではない者の状態像について検討することを目的とする。

○ 三住 倫生　(早稲田大学大学院人間科学研究科)
西中 宏吏　(早稲田大学人間科学学術院)
野村 和孝　(早稲田大学人間科学学術院)
浅見 祐香　(早稲田大学大学院人間科学研究科)
嶋田 洋徳　(早稲田大学人間科学学術院)

P1-2

一般改善指導受講者の語りの考察

要旨　一般改善指導（対人関係サポートプログラム）受講者に指導前・中間・終了・終了3か月の各地点でインタビューを行い、受講者の語りをもとに対象者に応じた働き掛けを検討する。

○ 倉成 宜佳　(メンタルサポート研究所)
周布 恭子　(美祢社会復帰促進センター　小学館集英社プロダクション)
受田 恵理　(美祢社会復帰促進センター　小学館集英社プロダクション)

P1-3

日本の刑事施設におけるアンガーマネジメント指導の研究動向

要旨　本研究は，2006年から2021年の期間において発表された，本邦の刑事施設において実施されたアンガーマネジメント指導に関する実践研究をレビューしたものである。

○ 高野 光司　(帝京平成大学)
田中 大介　(法務省矯正研修所)
田邊 総男　(相模原市役所)

P1-4

刑事施設における受刑者の公正感が職業訓練受講への動機付けにもたらす影響について

要旨　刑事施設における処遇を受刑者が公正であると認識することが職業訓練の受講に対する動機付けにどのような影響をもたらすかについて検討する。

○ 内山 博之　(仙台少年鑑別所山形少年鑑別支所)
内山 香奈子　(仙台少年鑑別所)

P1-5

「多文化共生プログラム」に参加する日本人少年への効果

要旨 外国籍在院者を中心に「生きづらさ」緩和のために実施している「多文化共生プログラム」に参加する日本人在院者への効果をインタビュー調査から分析する。

○ 沼田 好司 (瀬戸少年院)
佐々木 翔規 (瀬戸少年院)
徳山 敬枝 (名古屋少年鑑別所)

P1-6

対人葛藤場面におけるスキルと、メタ認知が攻撃性に与える影響の検討

要旨 大学生を対象とした調査により，対人葛藤場面における積極的・消極的な対処スキルと、普段のメタ認知力が攻撃性にどのような影響を与えるのかを検討する。

○ 小椋 爽夏 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学大学院)

P1-7

オンライン空間における犯罪に対する反応

要旨 犯罪発生やその関係者に関する報道に対し、多くの市民が、SNSを通じて個人の見解を付与した情報を瞬く間に発信・拡散する。本発表ではその実態と社会的影響について考察する。

○ 讃井 知 (上智大学)

P1-8

ほめられ・叱られ経験が逸脱行動願望に及ぼす影響について

要旨 ほめられ・叱られについての研究は多く行われているが、本研究では誰からほめられ、叱られることで逸脱行動を抑止できる可能性が高まるかを大学生を対象とした調査により明らかにする。

○ 岡本 晶子 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学大学院)

P1-9

自尊心、自殺念慮と攻撃性の関係

○ 雨霧 旭穂 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学大学院)

要旨 攻撃と自殺が同時に起きる背景に、どちらも自尊心の影響を受けていること、攻撃性と自殺念慮の間に強い関係が存在することが考えられる。本研究では大学生を対象に自尊心、自殺念慮、攻撃性の関係を検討する。

P1-10

女子受刑者の犯罪行動と関連要因についての検討－逆境体験・アタッチメント・抑うつ耐性に着目して－

○ 野口 千里 (加古川刑務所)
櫻井 鼓 (追手門学院大学)

要旨 本研究では、女子受刑者を対象として、小児期逆境体験・アタッチメント・抑うつ耐性と犯罪行動との関連について検討する。

P1-11

女子大学生の犯罪者に対する態度に影響を与える要因について

○ 関 嵐月 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学大学院)

要旨 女子大学生を対象とした調査に基づき，犯罪者（特に性犯罪者）に対する態度に影響を与えている要因としてどのようなものがあるのかということについて，パーソナリティ要因などを中心に検討を行う。

P1-12

少年非行の長期低減傾向を年齢犯罪曲線の形状の変化から考える

○ 小板 清文 (徳島文理大学)

要旨 少年非行は2003年以降、低減し続けており、特に年少・中間少年においてその傾向は顕著である。年齢犯罪曲線の形状の変化から少年非行の漸減傾向を考察してみたい。

P1-13

少年法改正に対する非行少年の認識等について（1）

要旨　令和４年４月に施行された改正少年法に対する非行少年の認識等を明らかにするため、少年鑑別所に入所した少年に対して質問紙調査を実施した。

○ 北原 安佳理　(横浜少年鑑別所)
中村 亮介　(横浜少年鑑別所)
野田 克哉　(小倉少年鑑別支所)
今村 悟也　(大阪少年鑑別所)
市川 千紘　(名古屋少年鑑別所)
石丸 綾子　(福岡少年鑑別所)

P1-14

少年法改正に対する非行少年の認識等について（2）

要旨　令和４年４月の少年法改正によって、非行少年の行動の変容等が促されたか否かを明らかにするため、少年鑑別所に入所した少年に対して質問紙調査を実施した。

○ 中村 亮介　(横浜少年鑑別所)
北原 安佳理　(横浜少年鑑別所)
市川 千紘　(名古屋少年鑑別所)
今村 悟也　(大阪少年鑑別所)
石丸 綾子　(福岡少年鑑別所)
野田 克哉　(小倉少年鑑別支所)

P1-15

性犯罪被害者の性的指向が第三者からの被害者非難に与える影響

要旨　性犯罪被害者の性的指向が、第三者からの被害者非難の程度に影響を与えるか、調査参加者に被害者の性的指向を操作した２種類のヴィネットを提示して検討する。

○ 松嶋 祐子　(専修大学)

P1-16

戦後から犯罪心理学会設立までの犯罪心理学の動向

要旨　犯罪心理学会設立の設立以前は殆ど検討されていない．本研究では二次資料や他の学会の発表から，学会設立までの研究動向や研究機関の動向の検討を行う．

○ 中田 友貴　(立命館大学立命館グローバルイノベーション研究機構)

P1-17

年少少年の再非行防止に関する検討Ⅰ－近年の特徴－

要旨 本研究では、過去１０年に少年鑑別所に初めて入所した１６歳未満の少年を対象に分析した。主に、保護者状況や交友関係、地域性などの環境因子について検討した。

○ 三輪 大樹 (名古屋少年鑑別所)
反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
松田 慎之介 (効果検証センター)
大原 天青 (国立武蔵野学院)
浅野 百々子 (名古屋少年鑑別所)
柿木 良太 (名古屋少年鑑別所)

P1-18

年少少年の再非行防止に関する検討Ⅱ－処遇による再非行傾向の違い－

要旨 本研究では、過去10年に少年鑑別所に入所した16歳未満の少年を対象とし、初入時の審判決定による処遇の違いから再非行の傾向を検討した。

○ 反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
松田 慎之介 (効果検証センター)
三輪 大樹 (名古屋少年鑑別所)
大原 天青 (国立武蔵野学院)
浅野 百々子 (名古屋少年鑑別所)
柿木 良太 (名古屋少年鑑別所)

P1-19

年少少年の再非行防止に関する検討Ⅲ－児童自立支援施設入所少年の特徴－

要旨 本研究では、児童自立支援施設に入所した少年を対象として、非行種別、入所期間、精神医学的特徴、処遇達成状況等について明らかにした。

○ 大原 天青 (国立武蔵野学院)
反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
松田 慎之介 (効果検証センター)
三輪 大樹 (名古屋少年鑑別所)
浅野 百々子 (名古屋少年鑑別所)
柿木 良太 (名古屋少年鑑別所)

P1-20

年少少年の再非行防止に関する検討Ⅳ－年少少年と年長少年の比較－

要旨 本研究では、過去１０年に少年鑑別所に初めて入所した年少少年（１６歳未満）と年長少年（１８歳）を対象とし、再非行傾向を分析し、それぞれの年齢層に必要な地域支援について考察する。

○ 浅野 百々子 (名古屋少年鑑別所)
反中 亜弓 (名古屋少年鑑別所)
松田 慎之介 (効果検証センター)
三輪 大樹 (名古屋少年鑑別所)
大原 天青 (国立武蔵野学院)
柿木 良太 (名古屋少年鑑別所)

P1-21

非行からの立ち直りプロセスー攻撃性の変化に着目してー

○ 本荘 智美 (奈良女子大学大学院)
岡本 英生 (奈良女子大学大学院)

要旨 非行から立ち直った人の自伝を用い，攻撃性がどのように変化しているかに着目して，複線径路等至性アプローチを用いた検討を行った。

P1-22

薬物依存症民間回復支援施設へのスティグマの程度と援助規範意識の関連

○ 山口 昂亮 (早稲田大学大学院人間科学研究科)
田中 佑樹 (早稲田大学人間科学学術院)
浅見 祐香 (早稲田大学大学院人間科学研究科)
野村 和孝 (早稲田大学人間科学学術院)
西中 宏吏 (早稲田大学人間科学学術院)
嶋田 洋徳 (早稲田大学人間科学学術院)

要旨 本研究は，薬物依存症に関する偏見と援助行動との関連性を調査した。結果として，当事者の偏見は援助希求行動への阻害要因として機能する可能性が示唆された。

P1-23

殺人事件の量刑判断に影響を与える要因について―面接調査を通してー

○ 望月 克海 (駿河台大学)
川邊 譲 (駿河台大学)

要旨 量刑判断に影響を与えるもののひとつに情状があるが, 本研究では, 殺人事件の裁判員裁判に影響を及ぼす可能性のある情状要因について半構造化面接を通じて検討した。

ポスター発表2　第２日
（服部国際奨学財団ホール）　　9月4日（日）　　9：45～11：45

P2-1

犯行テーマによる事件リンク分析の試み

要旨　我が国で連続で発生した強制性交等において、どのような犯行テーマが見出されるか、それらの犯行テーマが同一犯罪者の異なる事件でどの程度一貫するかについて検討する。

○ 横田 賀英子　(科学警察研究所)
大塚 祐輔　(科学警察研究所)
平間 一樹　(科学警察研究所)
渡邉 和美　(科学警察研究所)

P2-2

複数の犯行行動の組み合わせを考慮した事件リンク分析 ―侵入窃盗事件における検討―

要旨　本研究では、複数の犯行行動の組み合わせを考慮することが、侵入窃盗事件における事件リンク分析の精度に与える影響について検討する。

○ 大塚 祐輔　(科学警察研究所)
横田 賀英子　(科学警察研究所)
平間 一樹　(科学警察研究所)
渡邉 和美　(科学警察研究所)

P2-3

地理的プロファイリング研究用プロットプログラムの開発

要旨　犯人の犯行地選択に関する行動モデルの構築を支援する実験プログラムを開発した。犯行地点として任意の場所をクリックすると，位置情報と時間情報が得られる仕様である。

○ 山本 直宏　(山形県警察本部科学捜査研究所)
小林 正和　(宮城県警察本部科学捜査研究所)

P2-4

受刑者の子供との外部交通に関する基礎研究

要旨　本研究では、親権を有する受刑者の面会・通信状況と子ども―養育者の関係性及び母親の育児態度等との関連を検討し、受刑中の子どもとの関係性維持・発展について考察する。

○ 吉原 大樹　(法務総合研究所国際事務部門)
佐々木 彩子　(さいたま少年鑑別所)

P2-5

高齢受刑者の性格傾向と身体・精神・社会的特徴の検討

○ 湖城 孝宗 (三重刑務所)

要旨 本研究では、刑事施設に初めて入所する高齢受刑者を対象に、他の年代の受刑者と比較しながら、性格傾向とそれに関連する要因について検討する。

P2-6

反応時間を用いた隠匿情報検査における強化型アプローチの有効性―模擬犯罪課題を用いた検討―

○ 藤村 天羽 (福山大学大学院人間科学研究科)
大杉 朱美 (福山大学)

要旨 本研究では、模擬犯罪課題を用い、反応時間を指標とした隠匿情報検査において、課題の難易度を高めるフィラー項目を組み込んだ場合の有効性について検討する。

P2-7

眼球運動を用いた隠匿情報検査における刺激の単独提示の効果

○ 細谷 朱莉 (福山大学大学院人間科学研究科)
大杉 朱美 (福山大学)

要旨 眼球運動を用いた隠匿情報検査は、通常複数の刺激を対呈示する方法で行われる。本研究では１枚の刺激を単独提示し、眼球運動から裁決刺激の検出が可能かを検討する。

P2-8

子どもへの性的関心における自閉スペクトラム症傾向の性犯罪既遂者のパーソナリティ特性と認知特性の関連について

○ 山脇 望美 (人間環境大学)
福井 裕輝 (性障害専門医療センターSOMEC)
玉村 あき子 (性障害専門医療センターSOMEC)
河野 荘子 (名古屋大学)

要旨 子どもへの性的関心における自閉スペクトラム症傾向の性犯罪既遂者のパーソナリティ特性と認知特性の関連について検討し，その結果について犯罪心理学の観点から考察する。

P2-9

20代の人々におけるオンライン上の性暴力被害の精神的影響と援助要請行動

要旨 オンライン上の性暴力被害がもたらす精神的影響、その後の援助要請行動について、20代の人々1000名を対象とし、ウェブを利用した質問紙調査を実施した。その結果を報告する。

○ 齋藤 梓 (目白大学　公益社団法人被害者支援都民センター)

P2-10

ストーキング事案に関する深刻度評価は，加害者―被害者の性別によって変わるか

要旨 本研究では仮想のストーキングシナリオを用いて、加害者が男性である方が、または被害者が女性である方が深刻度はより高く評価されるという認知バイアスを検証した。

○ 鈴木 拓朗 (富山大学)

P2-11

薬物依存支援に関する地域連携体制のあり方に関する意見交換会の実践～更生保護施設入所者への支援に関する連携を中心に～

要旨 再犯防止推進計画における薬物依存者の地域支援を推進するための政策研究のうち更生保護施設における支援の課題と地域連携の在り方に関する意見交換会について報告する。

○ 道重 さおり (神戸学院大学)
森田 展彰 (筑波大学)
大宮 宗一郎 (上越教育大学)
有野 雄大 (東京保護観察所立川支部　筑波大学大学院人間総合科学学術院)
受田 恵理 (法政大学大学院人文科学研究科)
菊地 創 (松陰大学)

P2-12

社会関係資本がもたらす地域防犯への効果ーソーシャルキャピタルと防犯態度の関連についてー

要旨 本研究では、現在、地域防犯を行っている人を対象とした質問紙調査を行い、地域防犯活動を行っている人の社会関係資本と防犯に関する態度との関連について検討を行った。

○ 山口 雄人 (東洋大学大学院)

P2-13

地域援助における多機関連携ー事例検討会の取組を中心にー

要旨 少年鑑別所の業務の一つである、地域社会の非行・犯罪防止に資するための援助を拡充するに当たり、事例検討会を中心に、これまでの取組を検証するとともに、今後の展望を検討する。

○ 山岡 あゆち (東京少年鑑別所)
島﨑 素直 (東京少年鑑別所)
田中 かおり (東京少年鑑別所)
元山 紗季 (東京少年鑑別所)
今野 華奈 (東京少年鑑別所)

P2-14

繁華街商業施設等での盗撮防止―警察署による問題解決型活動の実践ー

要旨 問題解決型警察活動は洗い出し・分析・対策・評価の4段階からなり，欧米では効果性が認められている。日本の繁華街において所轄警察署が行った盗撮対策の実践例を報告する。

○ 島田 貴仁 (科学警察研究所)

P2-15

非行のある子の親が初回面接に訪れるまでの主観的体験

要旨 非行のある子の親が初回面接に訪れるまでの主観的体験を理解するのに妥当なインタビューを実施できるよう，昨年の研究で得られた知見を踏まえてガイドラインを作成する。

○ 前田 将太 (法務省矯正研修所　筑波大学大学院人間総合科学学術院)

P2-16

TATの各図版特徴に関する文献研究

要旨 心理検査（投影法）の一つであるTATの各図版特徴に関して、文献及び先行研究の知見を整理し、TATの解釈や活用の可能性について検討を行う。

○ 中島 賢 (鳥取少年鑑別支所)
田口 みのり (横浜少年鑑別所)
赤木 里衣 (大阪少年鑑別所)
三好 由希帆 (美祢社会復帰促進センター)
工藤 彩乃 (美祢社会復帰促進センター)
林 桜子 (千葉少年鑑別所)
九里 真緒 (静岡少年鑑別所)

P2-17

雨中人物画に表されるストレス対処能力について

要旨 雨中人物画に表れる指標と、ストレス対処能力に関する質問紙式心理検査の結果を照らし合わせ、描画テストとストレス対処能力に係る自己認知の関連性を検討する。

○ 西野 優花 (金沢少年鑑別所)
杉木 淳一 (金沢少年鑑別所)
三輪 大樹 (名古屋少年鑑別所)
山形 千遥 (富山少年鑑別支所)
髙原 祐馬 (福井少年鑑別支所)

P2-18

少年鑑別所での面会を通した親子関係の理解について（２）

要旨 少年鑑別所での面会場面は、生の親子関係を観察できる貴重な場であり、限られた時間の中で親子関係を捉えるためには、どのような指標を用いることが適当かを検討する。

○ 和田 美佐子 (長野少年鑑別所)
細見 有里 (前橋少年鑑別所)

P2-19

少年鑑別所において実施したP-Fスタディ検査に対する非行少年の反応ー知能指数とＥの因子との関連についてー

要旨 さいたま少年鑑別所で実施したP-Fスタディ検査に対する非行少年の反応を知能指数の高群・低群で分け、それぞれの群において、Ｅの因子の出現に差が見られるかを論考する。

○ 稲葉 凌太郎 (さいたま少年鑑別所)
加藤 美沙 (さいたま少年鑑別所)
南 卓志 (さいたま少年鑑別所)

P2-20

少年鑑別所において実施したP-Fスタディ検査に対する非行少年の反応ー知能指数と超自我因子との関連についてー

要旨 さいたま少年鑑別所で実施したP-Fスタディ検査に対する非行少年の反応を、知能指数の高群・低群で分け，それぞれの群において，超自我因子の出現に差が見られるか論考する。

○ 加藤 美沙 (さいたま少年鑑別所)
稲葉 凌太郎 (さいたま少年鑑別所)
南 卓志 (さいたま少年鑑別所)

P2-21

開放処遇施設における受刑者の適応様式に関する考察

○ 奥村 俊樹 (松山刑務所)
福場 和雄 (松山少年鑑別所)

要旨 受刑者の逃走リスクを精査するに当たり，適応様式を把握することは重要である。本研究では，東大式エゴグラム（TEG）及びバウムテストを用いて，多面的に捉えることを目指す。

P2-22

非行歴を有する少年の被害経験と援助者の役割

○ 堀尾 良弘 (愛知県立大学)

要旨 非行少年は過去に虐待・いじめ等の被害を受けた際、家族又は身近な他者（援助者）に対して、援助を求めていない場合がある。本研究では、被害を受けた際の援助要請の有無に注目し、その違いについて明らかにする。

P2-23

非行に対するラベリングと社会的距離に関する研究

○ 坂野 剛崇 (大阪経済大学)

要旨 仮想的ビネットを用いたラベル情報と態度レベルに関する調査結果をもとに、非行少年に対するラベリングと社会的距離の関連について検討した。

日本犯罪心理学会第 60 回大会賛助団体御芳名

賛助	株式会社　金剛出版	株式会社　北大路書房
	株式会社　サイエンス社	公益財団法人　日工組社会安全研究財団
	株式会社　ブックマン京都	株式会社　明石書店
	株式会社　誠信書房	株式会社　風間書房
	株式会社　有斐閣	
共催	名古屋大学大学院教育発達科学研究科	東海心理学会
助成	公益財団法人　大幸財団	

本大会を開催するにあたり、上記の機関・企業より多大なご支援をいただきました。

ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2022 年８月

日本犯罪心理学会第 60 回大会準備委員長
河野　荘子

日本犯罪心理学会第 60 回大会準備委員会　＊五十音順

委 員 長	河野　荘子（名古屋大学）	
副委員長	山脇　望美（人間環境大学）	
委　　員	柿木　良太（名古屋少年鑑別所）	北折　充隆（金城学院大学）
	小島　朱理（名古屋大学）	笹竹　英穂（至学館大学）
	原田　知佳（名城大学）	星　あづさ（愛知教育大学）
	堀尾　良弘（愛知県立大学）	吉澤　寛之（岐阜大学）

日本犯罪心理学会第 60 回大会プログラム

発行月　2022 年８月
発行者　〒464-8601　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 河野荘子研究室内
日本犯罪心理学会第 60 回大会準備委員会

表紙デザイン　坪田　彩乃（名古屋大学）